



自然派美容室ビーフェイス
練馬区旭町1-15-5
TEL 03-3976-1201
http://www.b-face.co.jp

バトックス・ブラ

創刊号で紹介した(バトックス・ブラ)を穿いて二週間位がたちました。

穿く前にメーカーさんに一週間位は、腰や背骨に違和感の出る人もいますが、あまり気にしないでください。といわれていたので少し不安は、あったのですが、幸い妻も私も何もなく穿いています。



妻も私もシャンプーの時が非常に楽になり、助かっています。

驚きました!

雑誌に(バトックス・ブラ)ととても似ている商品を見つけてしまいました。

謳い文句は、「骨盤もインナーマッスルも、姿勢もシルエットも、丸ごと補整する」

一緒だ。と思いました。

(バトックス・ブラ)と同じような商品は、いくつか出ているようで、ちなみにあの、イチロー選手も似たコンセプトのパンツを穿いているそうです。

ただ、特許の取れている商品は、(バトックス・ブラ)だけだそうで金額も一番安いみたいで、雑誌の商品は、¥9,800-イチロー選手の穿いているパンツは、¥16,000-位だそうです。参考までに

界面活性剤 ?

近年、地球規模のエコロジーへの関心が高まり、私たちが日頃使用する化粧品(シャンプーなども含め)や洗剤が、環境や人体に及ぼす影響についてクローズアップされてきています。化粧品や洗剤に使われる界面活性剤が及ぼす影響という部分から考えてみたいと思います。

界面活性剤には多くの種類があり、それぞれに性質も異なります。その中でも特に注意しなければならないものに硫酸を使用した界面活性剤があります。悪い成分の代表的なもので「悪い」と

いう意味には大きく分けて二つあります。

一つは人体に対する影響です、そしてもう一つは環境に対する影響です。

まず人体に及ぼす影響。シャンプーに表示されている、ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸塩に代表される硫酸系の界面活性剤は、食器用洗剤や衣類を洗うコンパクト洗剤に主に使用される、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウムとある部分近い性質を持った界面活性剤で、タンパク質を変化させてしまう力の強いものです。

これをタンパク変性作用と言います。私たちの体は水以外の大部分がタンパク質でできているので、そのタンパク質の性質を変化させてしまうということは大変なことなのです。

現にこれらの成分が皮膚のタンパク質を変性させて手あれの原因となったり、精子を殺したり、赤血球を破壊するなどの研究データがたくさんあります。



タンパク質変性作用の強いものは毒性も高いということが言えます。



そして次に環境に対する影響です。家庭からの雑排水や工場排水などもありますので、ここでは界面活性剤の影響という点から考察してみます。

いろいろな製品を界面活性剤の含有量で見ると、コンパクト洗剤約40%、台所用洗剤約15%~30%、濃縮型洗剤20%~60%、シャンプーでは15%~20%、ハミガキで0.5%~2%程度です。

これらを、使われている界面活性剤の種類や性質、そして同じ濃度での洗浄力という点から生分解性を推察しなければなりません。

生分解性とは、有機物の日本の平均的河川(カルシウム、マグネシウム含有量50~60PPM)における、5日間での水中の微生物などによる分解率を言います。

この生分解性から見ると、天然物を起源として生産されたものは自然界の微生物により速やかに分解されますが、石油起源のものは分解されにくいということがわかっています。

環境にやさしい製品とは、

大量生産しやすく、品質管理の楽な石油起源の製品ではなく、人体に対して安全性が高く、環境に対しても生分解性が速い天然物を起源とした製品なのです。

どんなに天然の原料を使っても、界面活性剤に硫酸を使用した製品は、人体に対しても環境に対しても好ましい商品ではありません。

生物と環境との関わり(エコロジー)を考えた場合、このことを抜きにして



それを論じることはできません。裏面表示はその商品の中身を知ることができる企業にとっての答えです。

私たちの未来のために、普段使用する商品をあらためて考えてみる必要が気がします。

界面活性剤とは、

水分と油分などのように、表面張力が違い、本来混じり合わない物質同士の仲立ちをし、溶け込んだ状態にする物質のことを言います。

野菜を食べるときに使うドレッシングを例にとって説明しましょう。ドレッシングは酢(水分)と油で作られています。

使う時に容器を振って混ぜますが、完全には混ざりませんのですぐに分離してしまいます。

このドレッシングに、卵の黄身(卵黄)を入れてかき混ぜるとマヨネーズができます。

この時に使った卵の黄身、その中の成分レシチンが界面活性剤として酢(水分)と油を乳化させたのです。

このように界面活性剤とは、それ自体が悪いというのではなく、界面活性剤として使用した原料が何かによって良し悪しを判断すべきものなのです。

卵の黄身のように、食べられる安全性の高い界面活性剤は自然界に数多く存在します。水分と油分のどちらも原料とする化粧品には必ず使用されるもの、それが界面活性剤なのです。

どんな種類があるの？

いったいどんな種類があるのでしょうか。大きく分けると5種類程度に分けられます。

- ①硫酸系
- ②脂肪酸系
- ③アミノ酸系
- ④ベタイン系
- ⑤高級アルコール系などです。

この中で、アミノ酸系とベタイン系は天然から作られるもので、脂肪酸系と高級アルコール系は天然のものとしてでないものがあります。通常、汚れを落とす製品には何種類かの界面活性剤が使われます。その中で、一般製品に一番多く用いられるものに硫酸系の界面活性剤があります。

以前の表示では指定成分といい、アレルギーを起こす可能性があるものとして表示義務があった成分なのです。

現在では、全成分表示に成っています。

成分表示に

ココアンホ、ココイル、ラウロイル、ペタインの文字があればアミノ酸系または、ベタイン系の成分です。

成分表示で水の次にココアンホ、ココイル、ラウロイル、を含む成分が表示されていれば、アミノ酸系シャンプーと判断できます。

出来れば安全性の高いアミノ酸系シャンプーでノンシリコンのものを選んで頂ければ自分のため環境のためになります。

シリコン

サラサラ、ツルツル

手触り感を重視したヘアケア商品などが流行っていますが手触り感の成分はコーティング剤で髪を包み「ツヤ」「手触り感」をアップさせますが「コーティング」と「保湿」は、相反する関係にあり、髪を包むと言うことは、頭皮もコーティングされ、せつかくの保湿成分がはじかれてしまいます。そのことにより将来的に切れ気、抜け気のもとになる恐れもあります。

健康で美しい髪は、シルクやウールと同じで、本来濡れた状態では、キシミ乾いた状態でサラサラになるものです。

*注意*シリコン系のコーティング剤シメチコン(ジメチコン)、シクロメチコン、シリカなどが主流です。

最近、カチオン化プロテインやカチオン化コラーゲンなど、たんぱく質で髪に良さそうなものも出てきています。カチオン化とは、化学処理で陽イオン化し、吸着性を高めることで、頭皮・頭髪への影響は変わらないのです。

本当に体と、環境に良いものを選べる用に役立つ情報を載せて行きたいと思えます。